

文部科学省「研究大学強化促進事業」豊橋技術科学大学

平成25年度配分予定額：200百万円

これまでの産学連携実績や異分野融合研究の場を基盤として、従来の課題解決型工学から価値創造型工学に進化した異分野融合イノベーション研究の推進するための支援体制・環境を整備する。

- 「研究推進アドミニストレーションセンター」を設置し、その中に研究戦略室，研究・産連推進室，知財管理室，技術科学支援室，URAオフィスを設ける。
- URAは各室へ室員として参画し，相互に協力・連携しながら研究力強化に向けた取組を支援する。
- 価値創造型工学の創成に資する研究を推進し，分野・組織の垣根を越えた研究の場を提供し，若手教員等の人材育成・獲得を促進する。
- 人事労務制度改革の取組として，優れた創造的人材の獲得と育成に向け，年俸制と他機関との交流を基本とし，学内特別人事システムと多様な給与体系を整備する。

本学の目指すビジョンと本事業との関係

技術科学で新しい価値を創造する
『価値創造型工学』研究の拠点形成

主な研究基盤

- ◆ 37年にわたる産学連携
- ◆ 21世紀COE 2件
- ◆ グローバルCOE 1件

エレクトロニクス
先端融合研究所



LSI工場

異分野融合研究

分野・組織・文化
の垣根を超えた
研究の場

価値創造型・
異分野融合
イノベーション研究

多分野の国内外
企業・研究機関

多様な人材
(若手・女性・外国人研究者，留学生)

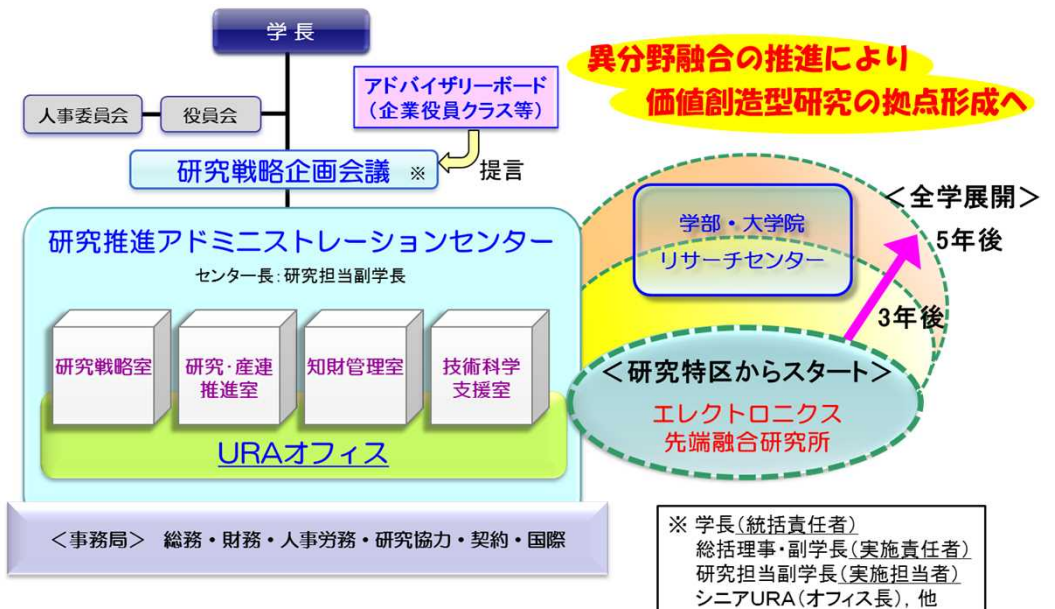
研究環境の整備
＜研究推進，人事制度改革＞

現在

(本事業で強化)

未来

本事業実施のための推進体制



研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析

(1) 人材登用

- ▶ 企業経験者割合: 全教員の30% <強み>
- ▶ 人事委員会で、すべての教員人事を戦略的に措置 <強み>
- ▶ 若手教員の公募・任期制採用 → 流動性 & キャリアパス拡大 <強み>
- ▶ 外国人・女性教員が多くない <弱み>

(2) 国際化

- ▶ 本学学生の約10%が留学生(東南アジア, 特にマレーシアが多い)
- ▶ 高専を経て入学する留学生比率が高く, 日本語能力・技術力が高く <強み>
- ▶ マレーシアに海外キャンパス(豊橋技術科学大学ペナン校)を設立予定, グローバル技術科学教育推進機構の組織化を予定 <強み>
- ▶ 外国人教員が多くない <弱み>

(3) 研究分野

- ▶ 『材料科学重心型』のトップ5程度に位置(「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」分析)
- ▶ 本学一人あたり換算年間論文数(2007~2011年期間)は他大学と比べ遜色なし, 論文の国際共著率は増加傾向(現在約25%)
- ▶ Top10論文は少ない ← 学術論文数だけでは表せない「ものづくりの分野」に注力のため
- ▶ 異分野融合研究の推進・強化に資する特筆すべき数々の研究成果 <強み>

(4) 研究推進体制

- ▶ H23特許権実施等収入金額: 全国17位(一人当たり換算で2位)
- ▶ 文部科学大臣表彰4件
- ▶ 科学研究費: H23採択率教員一人あたり採択件数比率0.67, 配分額2,020千円/人
- ▶ 科学技術コーディネーターやプロジェクト支援専任者が少ない <弱み>
- ▶ プロジェクト企画立案・推進支援や国際的プロジェクト支援体制が不十分 <弱み>

研究力強化に資する方針・目標

(1) 人材登用

- ▶ 年俸制を組み込んだ「学内特別人事システム」を整備
- ▶ テニユアトラック制の継続
- ▶ 新規採用数増を検討, 多分野から多様な人材を確保
- ▶ 大学-産業界間における人事交流

(2) 国際化

- ▶ 国際法務・知財・コンプライアンスを担当する人員を配置
- ▶ 世界最高水準の教育研究機関との交流ネットワークを堅持
- ▶ 国際交流協定締結・共同研究実施
- ▶ 研究特区とするエレクトロニクス先端融合研究所から国際化を展開
- ▶ グローバル技術科学教育推進機構や海外キャンパスを設置

(3) 研究分野

- ▶ 異分野融合的研究の推進
- ▶ 産学連携的研究の推進
- ▶ 現在の課題解決型工学から『価値創造型工学』へ進化

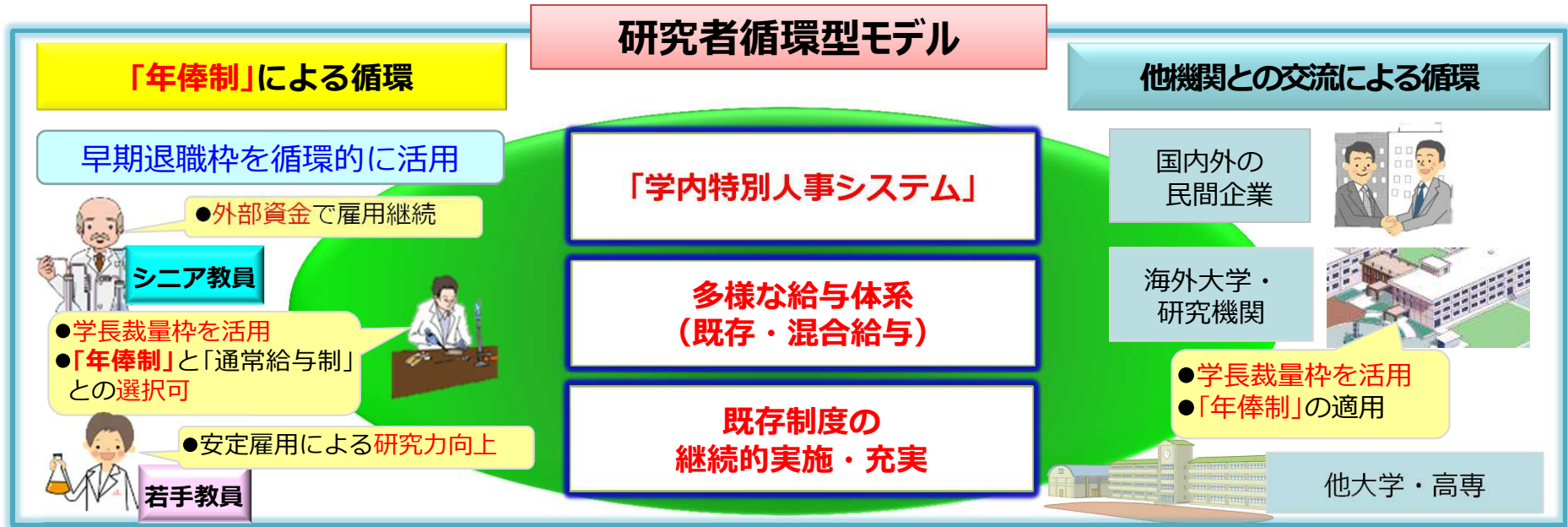
(4) 研究推進体制

- ▶ 研究推進アドミニストレーションセンターの設置
- ▶ URAオフィス長にはシニアURAを登用(※企業役員クラス相当経験者)
- ▶ エレクトロニクス先端融合研究所から研究力強化をスタート
- ▶ 国内外の企業・研究機関が参画した異分野融合研究を支援

(5) 大学院改革

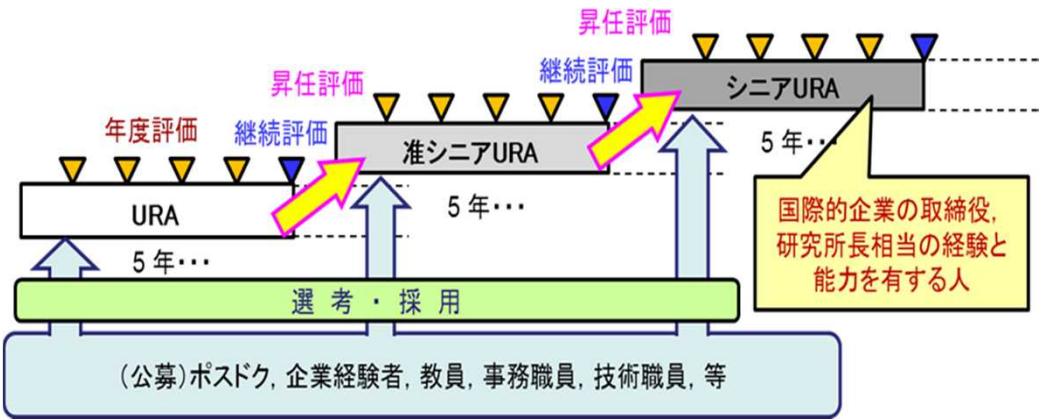
- ▶ 学部・大学院再編に対する自己点検
- ▶ 企業との協働プログラム推進, 他

本事業により取り組む人事制度改革



URAの活用と確保に関する取組

URAの採用・職階・キャリアパス



シニアURAの強力なリーダーシップの下で活動を展開



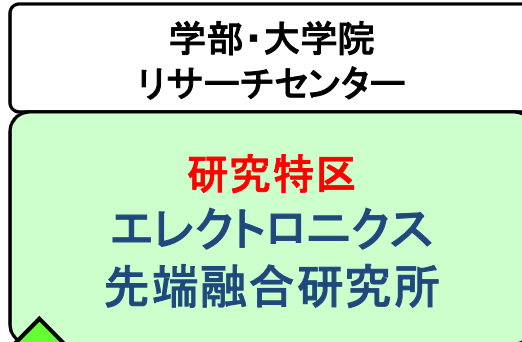
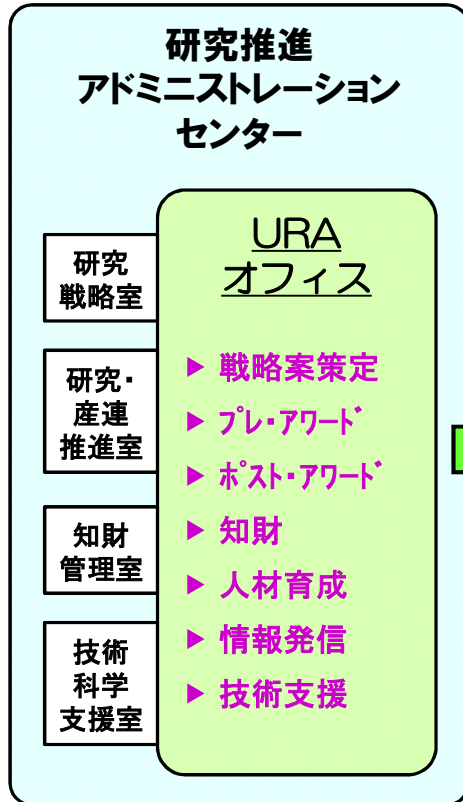
URA 8名 (本事業で6名, 自主財源で2名)

その他の研究環境改革のための取組

新産業創出と 価値創造型工学の創成

★異分野融合研究に基づいた研究力強化★

- 国内外企業, 海外研究機関
- 多様な人材



<真の産学連携推進
のための要件>

- ワンストップ型サービス
- 業務の迅速化
(業務ハイウェー化)
- 的確なプロポーザル・コミットメント
- 研究・情報セキュリティー
(秘密保持)
- 契約履行・責任の明確化
- 企画力・牽引力・情報発信力

(1) 『価値創造型工学』創成のための環境整備

- ▶ 異分野融合研究推進のための研究支援
- ▶ 国際共同研究推進のための環境整備
- ▶ 先端融合プロジェクト研究(EIIRISプロジェクト研究)の推進
- ▶ 事務・技術・研究支援の強化

体制

(2) 異分野融合研究の場の創出のための環境整備

- ▶ 分野・組織の垣根を越えた人材登用
- ▶ テニユアトラック制度による若手研究者登用
- ▶ 異分野融合研究国際会議の推進・人材交流
- ▶ 女性研究者の登用強化・活動支援
- ▶ 留学生・外国人研究者の滞在環境整備
- ▶ 学内研究設備共用システムの構築

場

(3) 若手教員等の養成・確保に向けたさらなる支援環境整備

- ▶ 競争的研究経費・外部資金獲得支援経費
- ▶ 若手研究者への助言体制・海外渡航支援
- ▶ 学生支援・表彰プログラム
- ▶ 研究専任教員の学内担務免除

人